きめ細かな事業を展開

JAF副会長・矢代孝義（高20回）

JAFは、日本自動車連盟（Japan Automobile Federation）の略称。創立は1963年、会員は約1780万人。

世界各国にこのような自動車クラブがあるが、その会員数は、米国のAAA、独のADACに次いでJAFは第3位である。

JAFのスタッフは、全国で約3、500人。行っている事業は、①ロードサービスの提供、②交通安全・環境保護活動、③モータースポーツの統括が主なもので、このほか、④自動車諸税の軽減要望等の自動車ユーザーの権利擁護、⑤地方自治体の地域振興に対する協力、⑥災害時の救援活動等を行っている。また、会員に対するサービスとして、⑦様々な優待施設（飲食店、ガソリンスタンド、娯楽、観光施設、スポーツ施設等）の割引利用サービスを提供している。

ロードサービスは、年間240万件ほど出動しているが、バッテリー上がり、キーの閉じ込み、パンクが御三家であり、これに落輪、事故、燃料切れなどが続く。キーの閉じ込みは、電気式のリモートキーの普及により次第に減少しており、一方パンクの救援は年々増加している。これは、スペアタイヤを積んでいない車が増えているためである。昨年の1月14日には関東地方を含め全国的な大雪に見舞われ交通が混乱したが、今年の2月8日から9日にかけての大雪、更に2月14日から15日にかけての大雪はそれ以上であり、交通は大きく乱れた。このため、JAFへの救援依頼が殺到し、とても対応が間に合わない状況であった。

災害時には、JAFは警察に協力して災害出動を行う。3年前の東日本大震災では、福島原発事故で被災者が避難地域に置き去りにした自動車搬出にJAFは一役買っている。立ち入り禁止区域内にわずか2時間の自宅訪問を許された避難住民に同行し、短時間のうちにバッテリー上がりや、故障している自動車の搬出作業を行った。近年は、毎年のように全国で局地的な集中豪雨や大雪などの自然災害が続いており、JAFは冠水で故障した自動車や、雪道でスタックあるいは脱輪した自動車の救援依頼を受けその救出に当たっており、ロードサービス隊は24時間、365日休むことはない。

この頃、各方面で反響を呼んでいるのは、JAFの優待施設の割引利用サービスである。飲食店では、ロイヤルホスト、サンマルクカフェ等が10パーセント引きの料金で利用できるほか、各地の様々なお店がJAFと契約して特典を用意している。若者向けには、カラオケ店や娯楽施設の利用が広がっている。また、1リットル当たり1円から3円程度の割引を受けられるガソリンスタンドは、全国で5000カ所以上あり、各地の道の駅でも様々な割引サービスを受けられる。カーフェリーの料金も、会社によっては3割引とかなり大きい割引を受けることができる。現在、JAFの優待施設は、全国で約3万カ所である。

おやっと思うかもしれないが、JAFでは会員向けに「音楽日和」なるクラシックコンサートを主催し、ドライブコースや観光スポットを組み込んだドライブマップは、大変評判が良い。各地の自治体と提携し、観光客の送り込みによる地域振興にも一役買っている。

モータースポーツの分野では、JAFは国際ライセンス（スーパーライセンス、A級、B級、C級の各ドライバーライセンス等）や、国内ライセンス（A級、B級のドライバーライセンス等）を発給するとともに、各種の国内レースを統括している。国際自動車連盟（FIA）公認の国際レースは、我が国で年間5レースほどが行われており、JAFはFIAに代わってこれを統括している。来年のF1にはホンダがエンジン提供により復帰するということで話題になっている。ひところの景気の低迷により日本の自動車メーカーはモータースポーツから手を引いていたが、ここにきて再度モータースポーツに乗り出す気配がある。

JAFの交通安全活動は、歴史が長い。各種のドライビング講習のほか、シートベルトやチャイルドシートの着用調査、チャイルドシートの着用指導、シートベルトコンビンサーによる体験講習、先進安全車（ASV）の試乗、歩行者の反射材活用推進、幼児に対し音楽演奏を通じて交通安全教育を行うドレミ活動などを継続して実施している。

（元警視総監、高20回）

ネパールと私

北角虎男（中41回）

〝ナマステ〟、私はこの言葉が大好きです。「ナマ」はナームと手を合わせ、仏様を拝むときの言葉。〝アーステ〟は貴方も天も地も、動物も植物も森羅万象とともに生きているんだ、という意味。

ネパール、インドなどでは会う人ごとに手を合わせ、おはようもこんにちはも、さようならもお休みなさいも総て〝ナマステ〟。この一時の出会いを大切にとは、日本の茶道の「一期一会」と同じです。

ヒマラヤの山に憧れ、朝日に真っ先に輝くエベレストを仰ぎ涙したのを皮切りに次々と有名な山を訪ねるようになった或る朝、カトマンズ市内でホテルに帰る道がわからなくなった。困っていると二人の若者が近寄って「日本人ですか」と声を掛けてくれた。この出会いがネパールとの深い縁の始まりとなった。

ホテルに着くと先刻の若者二人が、日本語を勉強している仲間が待っているので、と夕食を用意してくれていた。この若者たちが町の高等学校の古い校舎の裸電球の下、熱心に日本語を勉強している姿に感動して帰国したら、この若者たちに日本語を指導奉仕していた国際大学の結城教授を紹介され、ネパールの留学生がわが家を訪れるようになった。帰国するとき「お母さんネパールに行きましょう」と妻が誘われ、私は十数日後に妻を迎えにネパールを訪問した。

これがさらに深い縁となり、帰国する当日、日本語勉強の仲間から「日本語学校を造ってくれ」とねだられた。市の中心街の一角に空き家がある、それを改築すればいくらくらい必要か、早速数人が計算して日本円で二百万円くらいあればとのこと答え。十日間ほどあちこちを案内され感動していた妻が「私のへそくりがあるので造ってやりたい」と、「わかった」と答えて帰国し結城教授に話したら「できたら本格的な学校を建ってもらえませんか」との希望。そこで募金活動を種々な方策で開始したのです。幸い議員という役にもあり、故郷柏崎にも後援団体もできました。

さらに人生は不思議な出会い。旧制官立の新潟高校の在京卒業生一校友会の集いが二カ月に一回位、千代田区の如水会館で行われていた。その席でネパール紹介と日本語学校建設企画を話して終わった時、一年先輩から「北角の話に感動した。俺は百万円寄付するからカフェ等が10パーセント引き格安で会員に提供している。今年は、サントリーホールなど全国で9回計画している。また、会員がグループで参加できる全国規模の合唱コンクールも試みることとしている。

これらの様々な有利な優待施設サービスが可能となるのは、JAFの会員の規模が極めて大きいためである。JAFは、また各国の自動車クラブと提携しているので、JAFの会員証を持っていれば、海外旅行先でも80カ国以上でその国の自動車クラブのロードサービスと16万ケ所以上ある優待施設のサービスを受けることができる。JAFは、情報サービスとして会員向けに様々な旅行案内やドライブ情報の提供を行っており、ドライブコースや観光スポットを組み込んだドライブマップは、大変評判が良い。各地の自治体と提携し、観光客の送り込みによる地域振興にも一役買っている。

モータースポーツの分野では、JAFは国際ライセンス（スーパーライセンス、A級、B級、C級の各ドライバーライセンス等）や、国内ライセンス（A級、B級のドライバーライセンス等）を発給するとともに、各種の国内レースを統括している。国際自動車連盟（FIA）公認の国際レースは、我が国で年間5レースほどが行われており、JAFはFIAに代わってこれを統括している。来年のF1にはホンダがエンジン提供により復帰するということで話題になっている。ひところの景気の低迷により日本の自動車メーカーはモータースポーツから手を引いていたが、ここにきて再度モータースポーツに乗り出す気配がある。

JAFの交通安全活動は、歴史が長い。各種のドライビング講習のほか、シートベルトやチャイルドシートの着用調査、チャイルドシートの着用指導、シートベルトコンビンサーによる体験講習、先進安全車（ASV）の試乗、歩行者の反射材活用推進、幼児に対し音楽演奏を通じて交通安全教育を行うドレミ活動などを継続して実施している。

（元警視総監、高20回）

編集後記

縁あってネパールを支援し、私が中心で支援した日本語学校は三校、全校次々にネパールナンバーワンと讃えられ、既に百名近い優秀な留学生が日本に学び、在日本ネパール人の模範と言われ感謝です。何と文学博士でネパール日本大使館の文化部の主任、建築博士は日本の建築会社で次々とマンションを建設、中には日本語、英語、フランス語、ヒンズー語など五、六か国語の通訳が見事で日本の法務省から月額数十万円の報酬を受けている人物やら…夢のようでもあります。

しかし優れた人物も多いけれど、ネパールはアジアで最も貧しい国の一つといわれ、発展の遅れている国。いつも私がお説教する話は、世界の優れた文化が地球の北側で生まれる。日本でも私の生まれた雪国では数か月雪に埋もれ厳しい生活で、工夫と努力をすることで負けない向上心が生まれるんだ。ネパールは自然が豊かじゃないか。いつでも野菜果物も豊富で不足はないが、工夫の心、マネジメントの感覚が遅れているのではないか、とお説教する。

日本で学び帰国するとき、殆どの若者が私のお説教を反芻し、帰国後立派な指導者になっている。本当にうれしい限りだ。

ら立派に学校を造ってやる」との発言。集まった先輩は東大出身の方々が多い。次から次と寄付の申し入れがあった。

中には政府の途上国開発支援機関の重役もおられ、無償で基礎建設の調査も行ってもらうことが出来た。こうして鉄筋コンクリート五階建ての学校が市の中心に建ちあがりました。建設費はネパール価格で約二億円を超える金額になったと言われ、開所式には涙する思いでした。

手を合わせ「ナマステ！」と挨拶したら来場者全員が手を合わせ「ナマステ」と唱え、来賓のネパール国文部大臣、日本国大使も全員立ち上がりました。

「私はこのナマステの言葉が大好きです。この言葉の意味は私たちは貴方、貴方と太陽も星も馬も動物も、森羅万象とともに生きているんだという素晴らしい言葉ですね」と感謝を込めて結びました。

その後、数年前にインドを訪問した時、ガイドを務めた大学の教授がナマステの語源をしっかり解説できず、私から解説されたこともありました。人生は時に触れ、折に触れて反芻することも大切なんでしょう。

＊　＊　＊

部科学大臣も出席しました。オープン以来既に多くの市民が見学に訪れ、博士の偉業に触れました。文化発信の施設として大きな意義を持つ記念館は今後も各方面の注目を集めることでしょう。

▽「ナマステ」とは人々が森羅万象とともに生きているんだという意味のあいさつの言葉だそうです。ネパールでの日本語学校設立に大きな貢献をしてきた北角先輩が解説しています。日本の茶道の「一期一会」と同じ意味で、一時の出会いを大切にしたいという意味も込められているとのこと。ネパールやインドの人と会ったら「ナマステ」と声を掛けてみましょう。おはようもこんにちはもさようならも、全て両手を合わせて「ナマステ」の一言で足りるのですから随分便利な言葉ですね（S）

▽母校のSSH事業に関心が寄せられています。科学的リテラシー向上にさまざまなプログラムが用意されており、苦手意識の解消にも役立っているようです。国際性の育成でも姉妹校提携している韓国の新道林高校との交流などを通じて積極的に向上が図られています。私たちが学んだ時と比べてだいぶ様子が違いますが、生徒たちが生き生きと学んでいる姿が目に見えるようで頼もしい限りです。

▽日本人以上に日本人らしいドナルド・キーン博士の業績を顕彰する記念館が柏崎にオープンしました。何故柏崎にと思う方も多いでしょうが、そのいきさつをブルボン記念財団の吉田さんが詳しく紹介しています。開所式には下村博文

株式会社阿部建設
社長　阿部尚義（高35）
会長　阿部弘一（高7）
柏崎市比角二―三―二六
TEL（23）4173

株式会社　植木組
取締役会長　植木康之（高15）
取締役社長　植木義明（高23）
新潟県柏崎市新橋二番八号

公認会計士・税理士
武田茂（高23）
千代田区九段南三―九―一二
九段ニッカナビル9階
TEL（五二一五）五三三三

税理士
佐藤正幸（高20）
港区六本木三―一五―七
ドミパルファン204
TEL（三五八九）一六四一

柏崎の産業団地　KASHIWAZAKI FRONTIER PARK
好評分譲中
低廉な分譲価格
立地後10年間
土地リース料
全額補助
柏崎フロンティアパーク
◆ものづくりの技術が集積したまち「柏崎」
魅力的な電気料金補助
電源地域ならでは　電気料金に大幅な補助
豊富な労働力
通勤圏の工学系人材は、年間約2,000名
多彩な優遇制度
用地助成金・税の軽減・水道料金補助など
用地をお探しの企業様
情報をお寄せください
柏崎への立地を検討している企業の情報を募集しています。ご紹介いただいた企業が柏崎フロンティアパークに立地した場合、最大300万円の報奨金をお支払します。
お問い合わせ　柏崎フロンティアパーク企業誘致推進協議会　http://www.kashiwazaki-fp.jp/